

■座長変更■

口演 27 肝臓 3 座長

【旧】井上 啓（金沢大学 新学術創成研究機構）

【新】稲葉 有香（金沢大学 新学術創成研究機構）

■演者変更■

Web セミナー4

【旧】Dalong Zhu

Endocrinology Department at Nanjing Drum Tower Hospital, the Affiliated Hospital of Nanjing University Medical School. / Chinese Diabetes Society.

【新】Xiaoying Li

Department of Endocrinology and Metabolism, Zhongshan Hospital Fudan University. / Chinese Diabetes Society.

■発表順変更■

シンポジウム 1

S1-1、S1-2、S1-3、S1-5、S1-6、S1-4

口演 103 小児・思春期糖尿病 1

III-103-6、III-103-1、III-103-2、III-103-3、III-103-5

※III-103-4 は演題取り下げ

口演 131 薬物療法（GLP-1 受容体作動薬 7）

III-131-2、III-131-3、III-131-4、III-131-5、III-131-6、III-131-1

■所属変更■

シンポジウム 20 S20-2 演者 黒江 ゆり子

【旧】岐阜県立看護大学・大学院

【新】甲南女子大学大学院看護学研究科

シンポジウム 21 S21-5 Kirsten Raun

【旧】Novo Nordisk, Denmark

【新】Global Drug Discovery, Novo Nordisk A/S.

シンポジウム 30 S30 座長 佐々木 秀行

【旧】和歌山県立医科大学みらい医療推進センターサテライト診療所本町

【新】関西医療大学 保健医療学部

口演 48 大規模臨床試験 2 演者 岩田 真希

【旧】防衛医科大学校

【新】自衛隊中央病院 内科

■演題名訂正■

PS3-8 会長特別企画 3

【旧】Functional Analysis on Favine/CCDC3 A hidden treasure for the future treatment of Atherosclerosis

【新】Functional Analysis on Favine/CCDC3

RP3-6 会長企画—研究者サークルを作ろう—3

【旧】糖尿病合併症における Vaspin の作用と新たな病態解明

【新】臨床医・研究者として継続してきた Vaspin の機能解析

S25-4 シンポジウム 25

【旧】肝臓のインスリン作用の減弱に起因し 個体レベルのエネルギー代謝を制御する新規の肝臓-脳-褐色脂肪組織連関の発見

【新】Novel liver-brain-BAT crosstalk originates from hepatic insulin action and regulates systemic energy metabolism

■演題取り下げ■

口演 3 ラ氏島の生物学 3

I -3-1 「単細胞トランスクリプトーム解析による膵 β 細胞増殖過程の遺伝子発現解析」

口演 17 1 型糖尿病 5

I -17-4 「SGLT2 阻害薬はコントロール不良の 1 型糖尿病患者の time in range を改善する」

口演 30 低血糖 2

I -30-5 「膵多血性腫瘍と反応性低血糖を認めた一例」

口演 59 糖尿病療養指導 (チーム医療 2)

I -59-3 「糖尿病チーム活動におけるリンクナースの取り組みについて」

口演 88 糖尿病療養指導 (透析予防・栄養指導)

II -88-1 「当院外来における透析予防指導の効果の検討」

口演 94 腸の生物学 3

III -94-6 「ストレプトゾトシン抵抗性ラットに認められた消化管・膵臓連関」

口演 95 筋・心筋の生物学

III-95-4 「Role of immune cells (macrophages) in recovery of muscle after injury」

口演 110 2型糖尿病 5

III-110-1 「日本人2型糖尿病に対する遺伝素因、一塩基多型の影響の解明 10年後フォローアップ」

口演 113 網膜症

III-113-4 「VR教材を用いた糖尿病網膜症没入体験の医療者に対する有用性の検討」

口演 116 心血管 3

III-116-7 「2型糖尿病患者における左室拡張能への睡眠の影響—HSCAA 研究—」

口演 123 食事療法 1

III-123-1 「食事療法ガイドライン / 高齢者糖尿病食のエネルギー量・各エネルギー比率の算定と課題について」

口演 125 食事療法 3

III-125-6 「食塩摂取過多の2型糖尿病患者に対する減塩への意識付け ～ランダム化比較試験～」

口演 133 運動療法 1

III-133-3 「糖尿病患者の生活空間に影響を及ぼす因子の検討」

口演 141 感染症 2

III-141-2 「血糖管理や感染症治療に難渋した播種性クリプトコッカス症の糖尿病剖検例」

ポスター3 1型糖尿病 3

P-3-4 「インスリン注射療法を離脱することが出来た自己免疫性急性発症1型糖尿病の一例」

ポスター21 その他の糖尿病 1

P-21-7 「免疫チェックポイント阻害薬投与後に緩徐なインスリン分泌低下を来した糖尿病症例の一例」

ポスター25 感染症

P-25-3 「SGLT2 阻害薬内服中に気腫性膀胱炎を来した1例」

■日程表記載内容修正■

シンポジウム 31

英

英ス

 削除

■抄録記載内容修正■

会長特別企画2 PS2-5

抄録 21 行目 【旧】牧野 進 【新】牧野 英一

口演 81 薬物療法（ビグアナイド薬）II-81-7 演者 三橋 達郎

抄録 1 行目 【旧】アナグリプチン 【新】アログリプチン

■抄録記載内容差替え■

シンポジウム 1 S1-4 谷合 久憲

<目的>入院による ADL や認知機能の低下が問題視されている高齢糖尿病患者の増加や、病院側の診療報酬単価や看護重症度の観点から入院日数の削減が重要と推測される。基幹病院(病床数 606 床)で 5 年間在宅医療を展開、地域の訪問看護等の多職種と連携することで在院日数や入院患者数の削減を認めたので報告する。<方法>NPO 法人が「在宅連携会議(全 84 回開催)」を毎月開催し、「顔」と「腕」の見える関係を確認し、24 時間 365 日の連携を可能にする ICT ツールの活用をそれに追加した。COVID19 流行下でも対面の会議を Zoom 会議にすることで、変わらない連携体制を保持している。在院日数を削減し、短期間での再入院を予防する為に①救急外来にて入院期間を予測、退院日を決定、退院困難な要因がある場合は介護福祉専門員を紹介した。②入院中の療養指導から退院後を予測、ICT ツールにて在宅のケアに情報提供した。③退院当日に地域の訪問看護ステーションに介入依頼、インスリン等の自己注射手技等を再確認、他のご家族にも技術指導し複数の協力者による療養環境を構築した。ADL 低下を認めた場合は訪問リハビリテーションやケアの導入を提案した。④退院当日に地域の調剤薬局にも介入依頼し、入院中に把握できない残薬や他の医療機関からの処方薬を確認した。⑤地域の管理栄養士に訪問依頼し、在宅での食事環境や調理器具を勘案した栄養指導を実施した。情報を ICT ツールにより一元的に管理し、情報の即時性、多面性、双方向性を担保し、患者を中心とした糖尿病療養を支援した。<結果>糖尿病代謝内科の在院日数は「糖尿病」では 2015 年度の入院患者数 76 名、在院日数 8.82 日に対し、2019 年度ではそれぞれ 37 名、2.27 日と減少、またレポートデータとしては全国平均入院日数 14.4 日に近い入院日数 15 日では 47,168 点に対し、当院の平均入院日数に近い 2 日では 11,431 点であり入院に関する医療費の大幅な削減が認められた。<考察>入院治療に、救急外来での退院支援及び退院後の ICT を利用した地域多職種の糖尿病療養を追加することで在院日数や入院患者数、入院医療費の大幅な削減を認めた。また ICT 導入の副次的効果として医師や他のケアの情報を閲覧することで自然と学習効果が得られ、在宅チームから秋田県糖尿病療養指導士の資格を 20 名以上の取得するに至った。また入院を希望されない認知症や高齢、高血糖患者に在宅チームで介入することにより在宅での血糖コントロールを可能となったことが、結果的に入院患者数の減少に寄与したと推測される。その後、ICT 連携に行政の保健師や管理栄養士が参加頂いたことで経済的な問題やアルコール依存、障がい、虐待等、糖尿病療養を著しく阻害する療養環境を整備する取り組みも始まっている。